

日本臨床宗教師会ニュースレター

第18号

令和8(2026)年事業予定

2016年に日本臨床宗教師会が発足してから10年の節目を記念して、シンポジウムの開催を計画しています。龍谷大学において2026年5月または6月を予定しています。

またこれにあわせて、例年3月に実施してきたフォローアップ研修も同時開催とすることを検討していますが、現時点では流動的です。決定し次第、メーリングリスト等で告知します。なお、会員総会は通常通り3月16日にハイブリッド（対面＋オンライン）での開催となる予定です。

令和7年度年間活動報告書の提出について

令和7(2025)年分の年間活動報告書について、ホームページから書式をダウンロードして、所属する地域の臨床宗教師会宛にご提出ください。提出されない場合は資格停止に、2年連続で未提出の場合は資格剥奪となります（資格制度細則第11条第1項（4）、及び同第2項）。臨床宗教師活動が出来なかった場合はその事情について記してください。

提出された報告書は後日まとめて会員向けに公開され、ネット上で閲覧できるようになります。

資格更新について

「認定臨床宗教師」資格は5年更新制です。資格の期限は認定証に記載されています。

更新条件を満たす目安として、5年間の間にフォローアップ研修に参加し、会話記録提出2回、活動内容検討提出2回、倫理講習受講2回が最低でも必要です。ご自身の単位取得状況について記録・管理をよろしくお願ひします。更新には所属する地域の臨床宗教師

令和8(2026)年度事業予定	p. 1
年間活動報告書の提出について	p. 1
資格更新について	p. 1
学会参加等への助成（報告）	p. 1
能登半島支援報告	p. 4
社会活動支援委員会報告	p. 5
各地臨床宗教師会活動記録	p. 6
倫理申立フローチャート	p. 8

会の代表者による推薦人確認書も必要となります。詳しくはホームページに掲載されている資格更新関連のファイルをご覧ください。

2026年5月に期限を迎える人は2025年12月中に、2026年11月に期限を迎える人は2026年7月中に、申請をしてください。また、出産・育児・介護・留学などのやむを得ない事情により猶予が必要な場合は、事務局にお問い合わせください。

学会等への参加促進のための助成（報告）

今年度より、医療系の学会の参加料が高額であることなどに鑑み、臨床宗教師の活動のアピールや、諸分野との交流を促進するための企画を学会等で行う際の費用を、日本臨床宗教師会として助成する試みを開始しています。九州臨床宗教師会と東北臨床宗教師会から助成金の要望が出され、3月の理事会でそれぞれ19万円と16.25万円の助成が承認されました。以下はその報告です。

(1)日本緩和医療学会学術大会 交流集会

臨床宗教師有志により、第30回日本緩和医療学会学術大会にて、医療者との交流集会を実施してまいりましたので報告いたします。

この度は日本臨床宗教師会より学会参加費助成をいただき、有意義な交流集会を実施出来ましたこと感謝申し上げます。

1. 開催実績

2025年7月5日午前7時30分～8時30分

於：マリンメッセ福岡。交流集会に出席した医療者：49名。臨床宗教師会企画協力メンバー：原信太郎（企画代表者）、赤星大道、淺枝泰淳、池内龍太郎、岩本信治、打本弘祐、金田諦晃、河南真吾（当日欠席）、田中至道、谷山洋三（当日欠席）、隱一哉、成田慶信、沼口諭、原遵由、南千代、芦田もと子、糸山公照

内容：15分で臨床宗教師の説明（原（信）・打本）。15分でスモールグループディスカッション（SGD）①「臨床宗教師と医療者が連携していく中での課題、ハドル、疑問、不安」。次の15分でSGD②「臨床宗教師会と医療者がより連携していくためのアイデア、具体的な実践例、成功例」。最後10分で3名の企画協力者（池内、金田、沼口）よりグループから出た意見を共有。残り5分で撤収作業。

2. スモールグループディスカッションの意見まとめ。

ア. 臨床宗教師の深刻な人材不足と、活動できる人材の発掘・育成方法、現場での研修・導入プロセスの具体化が急務となっている。現状では住職等の本業多忙による活動困難が多く、新たな人材確保策や育成体制の構築が必要。

イ. 臨床宗教師の医療現場への導入方法や連携・マッチングの具体策が不明確であり、現場での導入事例の共有、地域団体の活用、上司説得方法の整理、連絡窓口の明確化など、現場で実効性のある導入・連携強化策の策定が求められている。

ウ. 臨床宗教師の雇用・待遇に関する制度的課題（公立病院での雇用形態や給料設定等）が整理されておらず、情報共有や相談窓口の設置、支援体制の具体化が必要。

エ. 医療者と宗教者の連携体制が十分に構築されておらず、宗教的背景の異なる患者への配慮や現場での対立・疎外感の解消に向けた具体的な連携策の検討が未了。

オ. 臨床宗教師の役割や活動内容について、現場や一般への説明・啓発方法が不足しており、認知度向上と理解促進のための広報・啓発活動の体制整備が必要。

3. 所感

早朝にもかかわらず50名近い参加者あり。事前に準備したフライヤーの効果もあり。元々意識が高く臨床宗教師会への興味がある参加者が多かった。多種多様な意見が出て、参加した企画協力者それぞれに学ぶこと、反省すること、次に活かすことなどの発見・学びが多い会であった。日本会会員にもフィードバックし、可能な限り今後も毎年学会に参加し医療者へ働きかけていきたい。医療界との連携や臨床宗教師の活動の発展に寄与する取り組みと考え、引き続き日本臨床宗教師会には支援をお願いしたい。



(2)第48回 日本死の臨床研究会 年次大会 ワークショップ企画1「臨床宗教師と語ろう、死の臨床での連携について」

11月1日、2日に第48回日本死の臨床研究会年次大会が岩手県盛岡市にて開催された。ワークショップ企画「臨床宗教師と語ろう、死の臨床での連携について」においては地元である東北臨床宗教師会の協力を仰ぎ、医療

や介護福祉、宗教、スピリチュアルケア従事者など多様な立場の100人を超える参加者が来場し、企画への関心の大きさを感じた。

東北臨床宗教師会からは会長の小山田和正氏より東北臨床宗教師会についての説明をいただき、続いて青森県の小向善幸氏、岩手県の渋谷真之氏からそれぞれの地域における活動を発表いただいた。その後、グループに分かれ、主に東北臨床宗教師会会員をファシリテーターとしてグループディスカッションを行った。グループディスカッションについての詳細はこの後の石井氏の文章に譲るが、座長として全体を俯瞰し、どのグループでも盛んなディスカッションが行われている印象を受けた。最後に2つのグループよりディスカッション内容についての簡単な発表をいただいた。

ディスカッションでの印象的な内容として「終末期に入つてから関わるだけでなく、もっと早い段階から関わって欲しいと感じる」「生前から死後まで長期に付き合っていく宗教者の存在は大事」「有償でないと依頼しにくい。何らかの基準が欲しい」などがあつた。

宗教的ケアやスピリチュアルケアに対し即時的な効果を期待する現場もあるが、今回のワークショップでは終末期や看取りの段階に限らず、死を見つめ生きるための人生の指針として宗教的支えに対する期待を感じられた。また、有償化とその基準を求める声はこのワークショップ以外でも時々耳にすることがあり、今後、臨床宗教師が他分野と協働していくために検討の余地があると感じた。

このような大規模な学会や研究会などのディスカッションを通じ、お互いの生の声を伝え合う企画が全国各地で開催されることの意義は大きい。地域との繋がりを密にでき、活きた臨床宗教師活動をおこなうための大切な縁となるのではないか。

最後に、このたびの企画を立ち上げてくださった谷山洋三さん、そして多大な力添えを

くださった東北臨床宗教師会皆様、そして助成金をくださり企画を支えてくださった日本臨床宗教師会に心より感謝いたします。

(高橋悦堂：ワークショップ企画座長、東北臨床宗教師会事務局長)



ワークショップの後半には、8名ほどのグループに分かれ、各グループの臨床宗教師がファシリテーターを務めてディスカッションを行いました。参加者は、看護師、医師、ケアマネージャーといった医療福祉の関係者をはじめ、宗教者や美容師など、多岐にわたる分野から集まりました。これにより、多角的な視点から、臨床宗教師の協働可能性について議論を深めることができました。

ディスカッションの開始当初は、ぎこちない空気が漂っていたというのが正直なところです。しかし、テーマを囲んで意見を出していくにつれて、「同じ課題に向き合っている仲間である」という意識が徐々に育まれ、最終的には、真剣でありながらも柔軟な雰囲気で意見を交わしていました。

まず、最初のテーマである「死の臨床での不安や課題」では、緩和ケア病棟での看護経験からくるリアルな苦悩や、看取りの経験から得た学びと課題など、参加者それぞれの人生に裏打ちされた深い想いが共有されました。参加者たちは互いの話に耳を傾けつつ、自分なりの理解を持って受け止めており、その場に流れる言葉は優しさに満ちていました。次のテーマ「死の臨床における臨床宗教師との連携の可能性」に移ると、現場の専門職ならではの具体的な問題意識と、臨床宗教

師のポテンシャルが結びつき、瞬く間にアイディアが溢れました。企画終了後には、活動地域を同じくする臨床宗教師と参加者が、希望に満ちた目つきで交流する姿が見られ、意義のある企画になったことを実感しました。

臨床宗教師に関する内容であるにもかかわらず、ディスカッションを終えた参加者の表情が、どこかスッキリしていることが印象的でした。世間や組織の中ではなかなか取り上げにくい「死にゆく人へのケア」を、一緒に考えられたことが理由だと感じています。向き合う問題は重いものであっても、志を同じくする仲間同士が支え合うだけで、その険しい道のりはなだらかになる。そう強く感じる一日となりました。

(石井裕晃：東北臨床宗教師会副会長・広報事業委員長、ディスカッションワークショッピングループファシリテーター)

能登半島支援報告

2024年1月1日に発生した能登半島地震の被災地での支援活動が中部臨床宗教師会を中心に続けられています（夢小屋との共同開催）。



2年目となる本年も能登半島地震で被災した輪島市、珠洲市、志賀町の仮設住宅5ヶ所において、傾聴活動を下記の通り実施をしてきた。

各回では、仮設住宅の入居者が来訪し、地震当時の状況・倒壊した自宅・遠方にいる子どもや孫の話たちとなかなか会えないことなどの話を聴きした。回を重ねるうちに、今

後の見込みや新たなコミュニティーが構築されたなど、明るい話題も聴かれるようになってきた。（坂野大徹）



【活動記録】

4/19(土)志賀町とぎ第4仮設住宅集会所（以下「仮設住宅集会所」の表記は略）

4/27(日)輪島市山岸

5/25(日)珠洲市蛸島

6/8(日)輪島市マリンタウン

6/21(土)志賀町とぎ第2

6/22(日)輪島市山岸

7/2(水)輪島市マリンタウン

7/19(土)志賀町とぎ第4

8/9(土)志賀町とぎ第4

8/24(日)珠洲市蛸島

9/25(木)輪島市山岸

9/28(日)志賀町とぎ第2

10/13(月祝)輪島マリンタウン

11/2(日)志賀町とぎ第4

11/3(月祝)輪島山岸第2



社会活動支援委員会報告

2025年度春に設置されました当委員会は、臨床宗教師の活動支援ならびに学びの場の整備に取り組んでいます。各部門ごとにこれまでの概要を報告致します。

○委員会の構成…災害支援チーム、傾聴依頼窓口チーム、セミナー関係チーム、その他の活動支援窓口チーム

○各チームからの報告

・傾聴窓口チーム(高橋一天)

各地域会における傾聴活動の実態調査を実施し活動にあたってのガイドラインを「全体」

「対面」「オンライン」「電話」に分けて作成しました。また傾聴申し込みに当たっての書面用とWeb用のフォームなどの申し込み方法については日本臨床宗教師会ホームページの該当箇所をご覧ください。傾聴依頼から実施、報告に至るまでのフロー図なども整備し、依頼に備えるプラットフォーム作りが整いました。外部から委員会へ入った傾聴申し込みは、基本的に当委員会が仲立ちをして地域会を通し全国の会員へ繋げて参ります。また宗教的問題に係る傾聴についての勉強会や関係弁護団との面談などを関係者やスタッフ対象に7/9、10/7、11/14の計3回実施し学びと理解を深めています。

・災害支援チーム(田中至道)

能登半島地震及び能登半島豪雨災害における災害支援報告会を6/15に中部臨床宗教師会から「出来る人ができる時に、出来る事をできるだけさせていただく一能登半島地震・水害の支援活動を振り返ってー」の講題でオンラインにて行いました。また、ボランティア参加申込書(会員用)、災害ボランティア派遣依頼書(外部並びに各地域会など用)を作成し、災害ボランティアにおけるメンタルケアについての考察や、各地会員の災害支援活動について調査とまとめの作成を進めています。災害支援時の委員会及び各地域会活動の手助けとなるガイドラインも作成し、地域や全国の会員のみなさまと共有を計ってまいります。過去の災害支援から気づきを得て学びとするため引き続き報告会を企画しており九州会報告を外部団体との共催で来春開催予定です。

・セミナーチーム(岩本信治)

5/16比較臨床宗教講座「浄土宗・融通念佛宗」、7/9傾聴に関する勉強会(共催)、9/11比

較臨床宗教講座「真言宗」を開催しました。2023年10月からの同講座は、これを以て全9回終了となり参加申込者は累計で約500名、許可が得られた回はYouTubeにてアーカイブ配信中です。また新セミナーについては、来年明けに連続講座「医療臨床ケア活動の実践」を開始致します。初回は1/15瀬良信勝先生(亀田総合病院、臨床宗教師)をお迎えし小西達也先生をゲストコメンテーターで、第2回は3/18田中善啓先生(京都田中クリニック、医師、僧侶)をお迎えして沼口諭先生と共に送ります。基本的に奇数月の開催となり全5回の開催予定です。

・その他の活動支援窓口チーム (岩本信治)

6/27第2回、11/13第3回「女性会員の集い」を開催しました。第2回は「もうひとりの私」と題した家族の看取りの日々を女性会員から、第3回は、瀧口世話人のインタビュー

「島薗先生に聴く」を含め、スピリチュアルケア界の女性先達の方々についてのお話を島薗会長からいただきました。次回は名称を改め来春、鷲尾龍華会員(石山寺座主)から臨床宗教師を目指す発端となったスピリチュアルケアのお話などを頂く予定です。また、当チームではYouTube出演依頼案件など各種問い合わせ案件の窓口となっており対応を行っております。それに備えての出演・講師・出張等の依頼書を作成いたしました。

各種お問い合わせ先

社会活動支援委員会

〈shien@sicj.sakura.ne.jp〉

☆ 災害支援部門

〈shien@sicj.sakura.ne.jp〉

ご連絡いただきましたら申し込みフォームなどお送り致します

☆ 傾聴依頼部門

・ 傾聴部門

☆ 〈rinsyu.keichomadoguchi@gmail.com〉

・ 傾聴面談お申し込みフォーム <https://forms.gle/VTgFLDuxZ53Fxp9A9>

☆ その他の活動支援窓口、研修会などへの出演・講師・出張に関する部門

・ <shien@sicj.sakura.ne.jp>

・ お申し込みフォーム <https://forms.gle/ytfCzMMcTgxjQoYLA>

☆セミナー部門

・(旧比較臨床宗教講座アドレス)

〈hikaku.rinshoshukyo.koza@gmail.com〉

各地臨床宗教師会活動記録

2025年の活動状況についての報告です。

◎北海道臨床宗教師会

第8回フォローアップ研修が途中になっております。役員改選を実施し、総会、FU研修を随時開催していく予定です。

◎東北臨床宗教師会

○一般事業

- ・隔月開催：役員会
- ・10月31日：岩手一関中尊寺特別研修および会員懇親会
- ・11月1日：定例総会

○学会参加

- ・11月1日、2日：第48回日本死の臨床研究会年次大会

①「臨床宗教師と語るワークショップ」

登壇者およびディスカッションファシリテーター
演者：小山田和正、小向善幸、渋谷真之

ディスカッションファシリテーター：東北臨床宗教師会会員14名

②「ありかた特別委員会企画 パネルディスカッション 看取りのケアにおける多職種協働」

演者：曾場浩代

○講演会派遣

- ・10月16日：藤岡多野医師会より地域包括ケアシステム講座のオンライン講師依頼

担当者：金田諦晃「こころに寄り添う臨床宗教師～死の現場の出来事を生につなげる～」

○電話相談事業

- ・宗教者による電話相談 0120-783-643

毎月第2、第4水曜日 16時～20時

当会臨床宗教師会14名が担当

- ・2月9日 電話相談事業オンライン勉強会および懇親会

滑川明男先生（せんだいG&Aクリニック院長、仙台グリーフケア研究会代表）

「グリーフに向き合うという事」

参加16名、懇親会参加12名

- ・6月29日 グリーフ・フェス「大切な方とお別れした時に、思い出して欲しいこと」

上記イベントにて、電話相談事業副委員長高橋悦堂が事業報告を行った

○広報事業委員会

HPおよびFBの運営を行っている。

○研修事業委員会

定例会（オンライン）

1月25日（土）13回定例会（活動記録検討会）

担当：妻鳥紘明師（山形県米沢市・曹洞宗 松原寺副住職）

内容：米沢市立病院での活動について

SV：高橋悦堂師

4月19日（土）第14回定例会（活動記録検討会）

担当：坂本顕一師（宮城県石巻市 建立寺住職）

内容：災害支援ボランティア活動の取り組み

SV：高橋悦堂師

5月17日（土）第15回定例会

担当：牛坂朋美氏（宮城県仙台市・スペルマン病院・パストラルケアワーカー）

内容：スペルマン病院での活動について

6月21日（土）第16回定例会

担当：尾崎朱美氏（宮城県富谷市・スペルマン病院・保健師）

内容：こころのケアを求めて

7月19日（土）第17回定例会

担当：柴田千鶴氏（秋田県秋田市・東北実践7期・ごてんまりZ訪問看護ステーション看護師）

内容：「死」とか「亡くなる」ってどういうこと？

～「あきた」のスピリチュアルな風土に魅了され、果てしなき世界の探求を続ける人のはなし～

9月13日（土）第18回定例会

担当：大村重信師

内容：スピリチュアルケアと自己理解

10月18日（土）第19回定例会

内容：読書会 わたしにとつてのインターフェイスとは？

参考：日本臨床宗教師会編著

「スピリチュアルケア～臨床宗教師によるインターフェイス実践の試み～」

○東日本大震災追悼および災害対応事業委員会

- ・2月24日 東北臨床宗教師会 東日本大震災追悼儀式

会場：金光教氣仙沼教会

追悼儀式 参加会員 6名（各宗教、宗派の形式で10分程度の儀式を行った）

◎関東臨床宗教師会

2月3日（月）2024年度運営委員会（オンライン）

2月24日（月）第29回フォローアップ研修（オンライン、SV：打本弘祐ほか） 14名参加

6月4日（水）2025年度総会・第30回フォローアップ研修・倫理講習（於・大正大学、SV：大村哲夫ほか） 29名参加

6月25日（水）会話記録検討会（オンライン、SV：森田敬史） 7名参加

10月10日（金）第31回フォローアップ研修（於・援助修道会、SV：葛西賢太ほか） 19名参加

12月16日（火）第32回フォローアップ研修・倫理講習（オンライン、SV：大村哲夫ほか）

◎中部臨床宗教師会

フォローアップ研修報告

【第44回】

日時：4月13日(日)13:30-18:00

講師:伊藤高章先生

会場:大垣/対面形式 一部ハイブリッド

内容:活動内容検討会/会話記録検討会/講義

参加者：11名

【第45回】

中止

【第46回】

日時：10月4日(土)13:30-18:00

講師:森田敬史先生

会場:法敬寺(名古屋駅近く)対面形式

内容:活動内容検討会/会話記録検討会/講義

参加者：13名

【第2回 宗教間対話研修】

日時:令和7年11月15日(土) 11:00～16:00

会場：カトリック津教会/真宗高田派本山専修寺

終生誓願式への参列/カトリック津教会の見学/真宗高田派本山専修寺を参拝

参加者：9名

【第47回 開催予定】

日時：12月21日(日)13:30-18:00

講師:日本臨床宗教師会倫理委員会の派遣講師

会場:大垣/対面形式 一部ハイブリッド

内容:活動内容検討会/会話記録検討会/講義「倫理」

◎関西臨床宗教師会

○事務局

会員情報の整理に努め会員自身が研修歴や年会費納入状況、登録基本情報を確認できるシステムの利用を進めています。会員数は60名を前後しています。コロナ禍で停滞した会員活動の活性化を図っています。2024年度総会を6月、2025年度総会を7月に開催しました。T病院の活動も3年目を迎えて第3回シンポジウム(10/11)には沼口諭先生から臨床宗教師とそのケアについてお話し頂きました。(野々目)

○研修委員会

・春FU研修会(6/21@zoom) 講義:「自分自身に優しく～スピリチュアルケアへの道」申英子先生、内容:SC講義90分/会話60分、4報/活動40分、4報発表者森本勇、義平雅夫、南千代、真田秀亮、参加者:21名、指導者:松本峰哲、申英子、西岡秀爾、森田敬史各先生

・SC講義夏1(8/19@zoom)、講義:「病人が話したくなる相手～私の考え方～」平野博先生(あそかビハーラ病院)、参加者:27名

・SC講義夏2(9/2@zoom)講義:「がん治療医による一般病院への終末期宗教的ケア導入のチャレンジ」寺嶋千貴先生(県立粒子医療センター、恵仁会田中病院)、参加者:30名

・秋FU研修会(10/25、27、30@zoom) 講義:「人を介さないスピリチュアルケアの風景-宗教的資源の可能性-」西岡秀爾先生、内容:講義90分/会話60分、10報/活動40分、8報発表者中西正導、渡辺有、岸本光子、竹林真悟、三品亮徹、爲末せつ子、木村天眞、源智道、参加者29名、指導者:松本峰哲、立野博、申英子、西岡秀爾、森田敬史各先生。(野々目)

○社会活動委員会

オンラインでの傾聴サロンは継続して定期開催し、新たに大阪府下施設での定期的な対面傾聴活動を開始し医療機関だけでなく高齢者施設や老健などでの活動も視野に入れた会員への活動場所の提供に努めます。また個別の傾聴依頼には、隨時会員が出張し対面で傾聴に当たり会場費や交通費などを負担や助成して継続可能な活動を行えるように図っています。(高橋一天)

○倫理委員会

・倫理講義1(7/4@zoom)講師:日本倫理委員会から2名、同瀧口委員長ob.参加、参加人数:14名、内容:日頃気になっている倫理に関する疑問や意見を参加者が順次発表し講師から一問一答形式で解説を頂きました。

・倫理講義2(11/11@zoom)講師:日本倫理委員会から2名、参加人数:13名、内容:事前に自身の活動で疑問に思った倫理上の疑問や対応に迷ったことなどを文面で提出し講師からの回答、解説に加え、そこから発展する問題なども含めて生きた倫理について解説頂きました。(石原真)

◎中国地方臨床宗教師会

○令和7年9月8日、フォローアップ研修を行いました。倫理講義。参加者9名。場所:広島市

○令和7年12月12日、フォローアップ研修開催予定

○役員会2回

◎四国臨床宗教師会

FU研修会実施報告

日時：2025年10月10日(金)11：00～16：00

会場：圓通寺（香川県宇多津町）

内容：開会儀礼

倫理講義 講師 大村哲夫氏、黒川雅代子氏

会話記録検討会（発表者）童銅啓純氏、楠應知氏（SV）大村哲夫氏

活動記録検討会（発表者）童銅啓純氏、廣瀬満和氏（SV）大村哲夫氏

懇親会

・参加者：5名（童銅啓純、楠應知、南千代、山崎裕照、廣瀬満和）

◎九州臨床宗教師会

○令和2年7月豪雨災害 追悼法要

日時：2025年7月4日（金）12時～

場所：みんなの家

内容：ふるさと再生の集い LINQ CAFE（傾聴力フェエ）

○緩和医療学会交流集会

日時：2025年7月5日 7時30分～8時30分

場所：マリンメッセ福岡a館

出席した医療者：49名（後方で聴講していた方が他に2-3名）

内容：1-2頁の報告参照

○スピリチュアルケア研修会

【スピリチュアルケアに関する講義】

日時：2025年8月23日（土）19：00～20：30

オンライン開催（Zoom）

参加者 7名

講題：心に寄りそう～スピリチュアルケアとは～
講師：玉置妙憂氏

○会員間研修

日時：2025年10月18日（土）19時～

演題：玖珠郡医師会との協働に至るまでと現状

演者：森智崇氏

参加者 8名

倫理案件申立のためのフローチャート

倫理違反が疑われる事案にかかる申立ての流れを倫理委員会がまとめました。大まかな流れをチャートにしましたので参考にしてください。

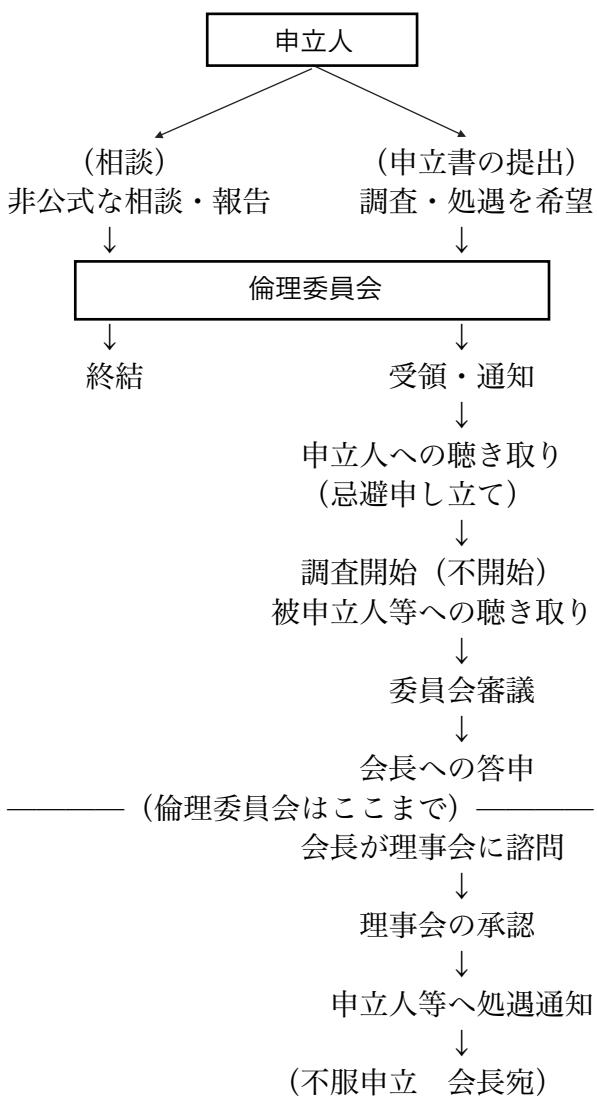
申し立て人（被害を受けた者、倫理違反を犯したと思う者、それを見聞した者）は、まず倫理委員会に相談・報告をしてください。倫理委員会からの助言により問題が解決した場合は、ここで終わります。

正式な調査・処遇を希望する場合には「申立書」を倫理委員会宛に提出してください。

「申立書」が受理されれば、聴き取り調査等を経て、倫理委員会から会長に答申が出されます。この答申が理事会で承認された場合、処遇が決定され、申立人等に通知されます。

なお、倫理違反の申し立てを受けた被申立人は、処遇が決定されるまで本会の退会届けは受理されません。

申立てについてのフローチャート



日本臨床宗教師会（郵送先）

〒980-8576

仙台市青葉区川内27-1

東北大学大学院文学研究科

死生学・実践宗教学専攻分野内

FAX: 022-795-3831

Email: sicj@g-mail.tohoku-university.jp

URL: <http://sicj.or.jp>